

次世代研究者支援プログラム

若手ステージを定義し、研究の未来を支える人を増やすプロジェクト

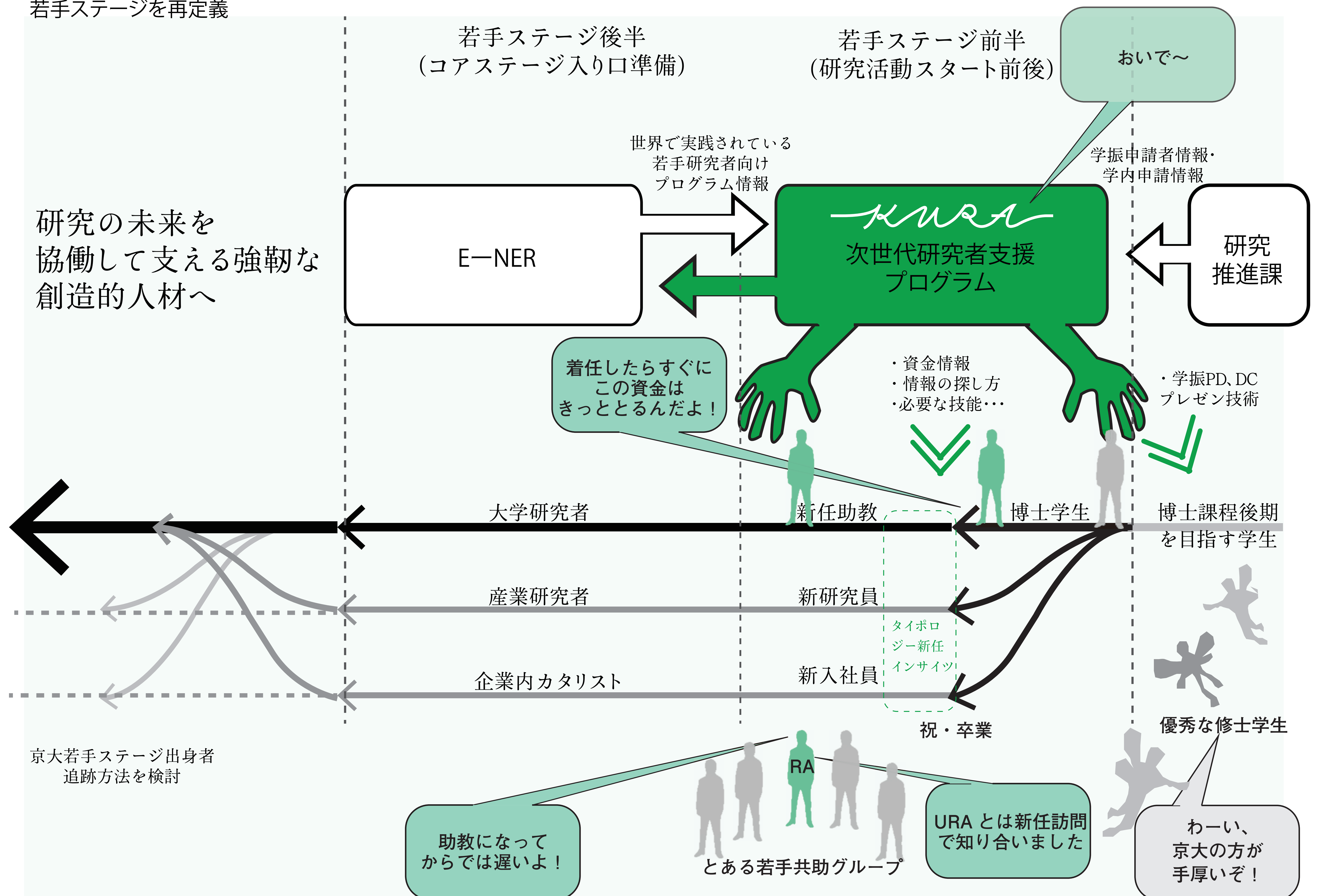
2016.6. ver.1.0
京都大学学術研究支援室 仲野安紗、森下明子

研究者としてのキャリアをスタートする直前・直後の研究ステージは、学生(または社会人)から研究者への移行期そのものであり、連続するステージとして扱われてこなかった。また、研究科ごと指導教官ごとに何を伝授され得るかされ得ないかがブラックボックスになっており、研究者として着任するタイミングで既に研究者スキルに差がついている場合もある。

こうした分断があるにも関わらず、このステージはその後の長い研究活動の基盤・基礎体力をつける重要な時期である。このステージにフォーカスした支援をすることが研究の未来を遅しくする。と同時に優秀な博士学生を引きつける機能となる。

また、このプロジェクトでは研究の未来に寄与することを目標とするため、アカデミア研究者のみならず民間研究者や企業などにおいて研究とのカタルストとなる人材を育成することも視野にいれる。

若手ステージを再定義



ひと続きの研究ステージを定義し、若手の共助グループをつくりニーズを汲み取る

1. 研究者人生スタート直前と直後を繋ぐ

- 若手研究者の共助グループをつくり、研究者人生スタート前の若手とスタート後の若手を繋ぐ。
- グループリーダーとなる若手研究者を定義し、RAとして活躍してもらう。
- ディスカッションの場から若手研究ステージに必要な情報や支援を汲み取る。
- 初期のグループリーダーはタイポロジー・新任訪問の研究者などから、グループメンバーは学振支援対象者を想定している。

次世代研究創生ユニットやタイポロジーPJ・との連携により

2. 若手研究ステージに必要な技術・情報を教える

- タイポロジー・新任研究者インタビューから大凡の課題を抽出
- 京都大学の次世代研究創成ユニットと連結する前半のステージをカバー。
- 次世代研究創生ユニットと若手のカリキュラムに関する情報と連携を行い、ニーズにあったカリキュラムを組み立てる。

研究推進課・学振担当との連携により

3. ステージ卒業後の追跡を可能にする

- 若手研究ステージで支援した学生がその後どのようなキャリアを積むのか、流動を把握する仕組みづくりを視野におく。
- 学振申請の支援を通し、連絡可能なリストを蓄積する。

手厚いサポートにより

4. 優秀な博士人材の呼び水となる

- 京大の研究環境が比較的恵まれていることは学外から来た研究者の知るところ。京大を志望する前に研究環境の良さをアピールする。
- 着任時に取り逃がしがちな学内資金、学外資金情報のアタッチとしての機能を担う。